

指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	自立活動		
タイトル	「3密」ってなあに？		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	日常生活の中で、自分で感染を予防するために「3密」を避けることが大切であるが、その意味が具体的に理解できていない。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	3つの「密」が、それぞれどんな状態なのか具体的に知る。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	窓を開けて換気をしたり、長時間くっついて遊ばないようにしたりする。たくさん人が集まる場所に行かないようにする。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

- ①小さい人形を使ってよい例と悪い例を示し、どこが違うかを見つけさせながら視覚的に状況を捉えさせる。



- ②人形でよくない状況を作り出しておき、どうすればよいか考えさせ、自分で人形を操作して「密」でない状態にする。

指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	学習場面，日常生活		
タイトル	ソーシャルディスタンスで 遊ぼう		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	ソーシャルディスタンスとは何かイメージは捉えているが，お互いの距離である2mがどれぐらいかは，数量的感覚をつかんでいない。そのため，すぐに近寄り，「間をとみましょう」と指示を受けても，適切な距離が分からず，間をとることができない。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	頭の中で2mの間隔をイメージしてそれを基準とし，集合した時に，その場の広さに応じて必要な間隔をとることができる。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	感染防止に必要な間隔を実際に測定する。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

指導時間 2時間 (第1次) ・ ソーシャルディスタンスとは何かを説明する。 ・ まずは，約2m離れてみましょうと，お互いに間隔をとらせる。 ・ 実際に，これぐらいと思った間を測定していく。何度も繰り返していく中で，自分の中でこれぐらいが約2mであると感覚をつかませる。 ・ 目安はお互いに両手を広げたぐらい。 ・ 場所をかえて，どの場所でも間隔をつかめるようにする。 (第2次) 「ソーシャルディスタンスフォト」 ・ まず2mぐらいの間隔で並んで，デジカメで撮影する。 ・ 次に互いの間に，どんなポーズをするか何を置くかなど相談して，フォト作りを楽しむ。 「間隔をあけて遊ぼう」 ・ 約2mの間隔を空けて立つ。 ・ 手を伸ばし，スプーンを使ってピン球渡しをする。 ・ 30秒で，何回渡し合うことができるかチャレンジする。 ・ 活動の中でとった間隔をイメージして，いつでもどこでも実生活の中で使えるようにしていく。
--

指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・ <u>通級による指導</u> ・通常の学級・その他		
校 種	<u>小学校</u> ・中学校	学 年	1・2・ <u>3・4</u> ・5・6年
指導場面	<u>授業</u> ・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・ <u>注意欠陥多動性障害</u> ・その他		
教科・行事名等	自立活動		
タイトル	糸電話で遊ぼう！		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	・ ついつい大きな声でおしゃべりをしたり、衝動的に大声を出したりする。 ・ 嬉しいこと、楽しいことがあると気持ちが高ぶりすぎてしまう。 ・ 適切な人との距離感がとりにくく、べったりくっついてしまう。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	目 標・こそこそ話ができるようにし、小さな声で相手に話を伝えることを体験させる。 ・ 人との適切な距離感を理解する。 配慮事項・糸電話のカップの模様は児童が作成し、自分と友達とのカップの使い分けができるようにする。 ・ マスクをつけて使用させる。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	・ 大声で話すことを減らすことで、唾液の飛沫を少なくする。 ・ ソーシャルディスタンスを理解し、人との適切な距離を保つことができる。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

糸電話を作ってみよう！

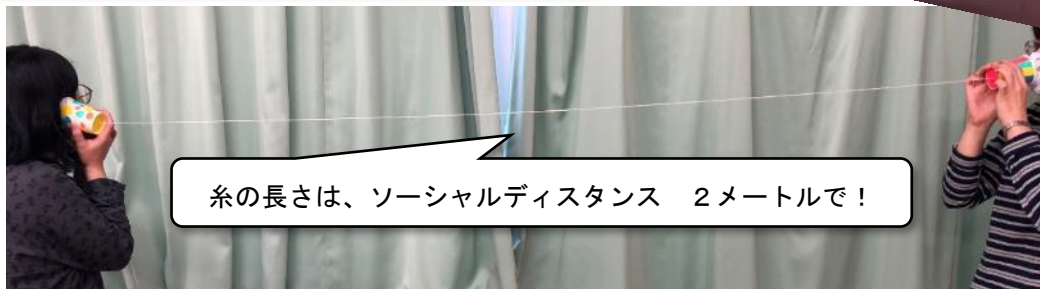
【紙コップの糸電話の作り方】

(材 料) 紙コップ 2 個 糸

(道 具) きり はさみ セロハンテープ

(作り方)

- ①紙コップに色をぬります。
- ②紙コップの底に、きりで小さい穴をあけます。
- ③糸を通してセロハンテープで固定します。



糸の長さは、ソーシャルディスタンス 2メートルで！

糸電話で遊ぶには、2メートルは短く感じるが、「新しい生活様式」の学習の一つとして、まずは、ソーシャルディスタンスの2メートルを体感させ、小さな声で話す練習をする。(コソコソ話の練習)

その後、糸を4メートルにのばしたり、聞いた言葉を覚えておき、次の人に伝える練習(糸電話伝言ゲーム)をしたりするなど、楽しい学習に発展させる。

指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	学校生活		
タイトル	周りの人と上手に距離をとって、気持ちよく過ごそう。		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	人との距離の取り方が難しく、近くに寄ってしまいがちである。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	手を広げて周りの人と触れ合わない間隔をとることができる。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	感染防止に必要な距離を実体験しながら、楽しく快適に学校生活を送る方法を身につけさせる。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

◎手を広げて周りの人と触れ合わない間隔を、実体験する。

1. 手を広げて周りの人と触れ合わない間隔を知る。
2. 活動中に、手を広げて間隔を保っているか確かめる。
3. 近くに寄ってしまっていたら離れる。
4. 1～3を繰り返し行い、身につける。



【身体接触せずに、楽しく快適に学校生活を送る方法】

① 手が触れなくても、伝わるよ！「エアーハイタッチ」

うれしいことがあった時に、相手の人と笑顔でハイタッチをするふりをする。



② 普段より大きな直径6mの輪になるように座ろう！「朝の会」

かなり距離をとって座り、1日の始まりを6人の児童が顔を見合って安心して始められるようにする。



③ ○の中で体を動かそう！「体づくり運動」

手を広げて間隔を確かめた後、立ち位置に○（ラバーリング）を置くことで、運動に集中することができる。



指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	各教科		
タイトル	ソーシャルディスタンスを取ろう		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	飛沫感染防止のため、各教科の授業において、友達との距離を取る必要があるが、学習に集中すると児童同士が接近しやすくなる。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	感染防止に必要な友達との距離が一目で分かる。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	友達との間にぬいぐるみを置き、友達と近寄りすぎないようにする。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

- ・ ソーシャルディスタンスについて、学習する。飛沫感染防止のために、友達と距離を取る必要があることを理解させる。（課題意識）
- ・ 友達と距離を取るために、間に何かを置けばよいというアイデアを引き出す。
- ・ いすを置いて、その上にぬいぐるみを設置する。
（情報の視覚化の工夫）
- ・ 児童から、ぬいぐるみの前に国語の教科書を置いたり、鉛筆を持たせたりし、「いっしょに勉強しよう。」と呼びかけたので、楽しい雰囲気になった。



指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	日常生活		
タイトル	「思いやりマーク」を貼って、みんなでルールを守ろう。		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	・人との距離の取り方が難しく、近くに寄ってしまいがちである。 ・感情のコントロールが難しく、社会的なルールやマナーを守れない時がある。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	・感染防止に必要な距離を保って待つことができる。 ・感染防止のための社会のルールを身につけることができる。 ・全校児童がルールを守れるようにマークをつけたことで、自己有用感を高めることができるようにする。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	・ソーシャルディスタンスマークによって、物理的に距離をとることができる。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

- ・それぞれの児童の歩幅（約5歩）を測定する。
- ・6年児童がそれぞれの歩幅の合計から平均を出す。（その長さを基準値と定める。）
- ・テープ（紐など）を切る。テープをもとに、児童がよく使用するトイレや手洗い場などを中心にソーシャルディスタンスマークを貼っていく。
- ・その後、各学年が使用するところにもマークを貼っていくようにする。
- ・トイレは2列目まで、手洗い場は次に待つ児童の分のマークを貼る。



マークを貼っている様子



約 1.5m 間隔をあけて貼りました



ルールを守って並んで待っている様子